

## 博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	郡山 翔平 (****年**月**日)
本籍	*****
学位(専攻分野)	博士(感覚矯正学)
学位授与番号	甲第182号
学位授与日付	令和5年3月21日
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当
論文題目	自閉症スペクトラム児における言語流暢性、デザイン流暢性の発達に関する検査成績に基づく研究 —流暢性と言語機能、認知機能との関連および流暢性の共通基盤—
審査委員	教授 秋定 健 教授 塩見 将志 教授 種村 純

### 博士論文内容の要旨

4歳から14歳の自閉症スペクトラム(ASD)児89名を対象として言語流暢性、デザイン流暢性、児童向けウェクスラー知能検査IV(WISC-IV)ショートフォーム、絵画語彙発達検査(PVT-R)及びフロスティック視知覚発達検査(DTVP)を実施した。言語流暢性では語頭音流暢性の発達が遅延し、カテゴリー流暢性とWISC-IV類似問題の間に関連性が見られた。デザイン流暢性は小学校中学年から高学年にかけて大きく発達した。検査成績の因子分析によって言語流暢性を含む表出性言語機能、デザイン流暢性、空間認知、図と地の知覚の4因子が見いだされ、表出性言語機能、空間認知及び図と地の知覚は小学校低学年から中学年に大きく発達し、デザイン流暢性は小学校低学年から高学年まで継続的に発達した。

### 博士論文審査結果の要旨

発表者は予備審査以降の修正・追加内容として各章の研究に関して研究目的と結論との整合性及び先行研究の追加について説明し、審査員は確認した。特に遂行機能に関する従来の因子分析的研究との相違について、その検査項目の範囲の違いを確認した。審査員は本研究の新規性に関して検討し、ASD児を対象とした言語及びデザイン流暢性の研究はいくつかなされてきたが、発達的变化を明らかにした研究は従来にないこと、また、それぞれの流暢性検査についていくつかの条件での成績の相違を明らかにした研究もないことを確認した。